

自律

挑戦

# 志保井が丘

協働  
創造

2021.1.29発行 文責 校長 目黒 満

教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校

## 五感を働かせて「季節」を感じよう

### 手洗いの時間・回数による効果

手洗いの方法	残存ウイルス数(残存率)
手洗いなし	約1,000,000個
流水で15秒手洗い	約10,000個(約1%)
ハンドソープで10秒 または もみ洗い後流水で15秒すぎ	約100個(約0.01%)
ハンドソープで60秒もみ洗い後 流水で15秒すぎ	約10個(約0.001%)
ハンドソープで10秒もみ洗い後、流水 で15秒すぎ を2回繰り返す	数個(約0.0001%)

先週、学校で給食の前に手を洗った時、ものすごく水が冷たくて、とても左表のように0.001%のウイルス残存率になるまで洗うことができませんでした。でも、今日は、少し楽になった気がしました。また、昨日の部活動

後の下校時はまだ周囲

〈森功次他著 感染症学雑誌より〉  
が明るく、日が長くなってきていることに気づき、「季節が少しずつ動いているんだなあ。」と感じました。

さて、今週で1月は行ってしまい、来週月曜日はもう2月です。2月2日は節分です。節分とは立春の前日で、季節を分ける日という意味です。この日には、邪気を払う行事が行われます。豆を撒いて悪い鬼を追い払うのは「豆(まめ)」が「魔滅(まめ)」につながるという縁起を担っているからだそうです。(なんだか今流行りの「鬼滅の〇〇」のようですね。)

この話題に出てきた「立春」とは、二十四節季(にじゅうしせつき)の一つです。二十四節季は、1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらにそれぞれを6つに分けたもので、今でも立春、春分、夏至など、季節を表す言葉として用いられています。日本は四季が特徴的に訪れるので、それぞれの節季の呼び名や意味は「なるほど」と思うものがとても多いと思います。2021年の二十四節季は1月から順に右の表のとおりです。



	日付(曜) 二十四節季名	季節の移り変わりの様子
冬	1月5日(火) 小寒(しょうかん)	寒の入りで、寒気がましてくる
	1月20日(水) 大寒(だいかん)	冷気が極まって、最も寒さがつのる
春	2月 3日(水) 立春(りっしゅん)	寒さも峠を越え、春の気配が感じられる
	2月18日(木) 雨水(うすい)	陽気がよくなり、雪や氷が溶けて水になり雪が雨に変わる
	3月 5日(金) 啓蟄(けいちつ)	冬ごもりしていた地中の虫がはい出てくる
	3月20日(土) 春分(しゅんぶん)	太陽が真東から昇って真西に沈み、昼夜がほぼ等しくなる
	4月 4日(日) 清明(せいめい)	すべてのものが春の息吹を謳歌する
夏	4月20日(火) 穀雨(こくう)	柔らかな雨に農作物が潤う
	5月 5日(水) 立夏	新緑に彩られ晴天が続く
	5月21日(金) 小満	陽気がよくなり草木が成長して茂る
	6月 5日(土) 芒種	稲など穀物の種を蒔く
	6月21日(月) 夏至	太陽が最も高く昇り最も昼が長い日
	7月 7日(水) 小暑(しょうしょ)	暑気に入り梅雨のあけるころ
秋	7月22日(木) 大暑(たいしょ)	夏の暑さがもっとも極まるころ
	8月 7日(土) 立秋(りっしゅう)	秋の気配が感じられる
	8月23日(月) 処暑(しょしょ)	暑さがおさまるころ
	9月 7日(火) 白露(はくろ)	しらつゆが草に宿る
	9月23日(木) 秋分(しゅうぶん)	秋の彼岸の中日、昼夜がほぼ等しくなる
冬	10月 8日(金) 寒露(かんろ)	秋が深まり野草に冷たい露がむすぶ
	10月23日(土) 霜降(そうこう)	霜が降りるころ
	11月 7日(日) 立冬(りっとう)	冬の気配が感じられる
	11月22日(月) 小雪(しょうせつ)	寒くなって雨が雪になる
	12月 7日(火) 大雪(たいせつ)	雪がいよいよ降りつもってくる
	12月22日(水) 冬至(とうじ)	昼が一年中で一番短くなる

一つ一つに季節の移ろいや季節の変わり目がイメージできる感じがしますね。

こうした季節の移り変わりについて日本人は「五感」を働かせることで様々な自然の変化を感じ取りながら、それを味わい、慈しみ、楽しんで生活してきました。春夏秋冬、折々の自然の美しさやすばらしさを、ぜひ五官を通して味わってみてください。心の面でも学習の面でも、必ず効果があるはずですよ。